

令和2年度 第2回松本市地域づくり市民委員会 会議要旨

開催日時 令和2年10月9日（金曜日） 午後3時から午後5時00分まで

開催場所 大手公民館 2階大会議室

出席者（敬称略）

委員 降旗都子（委員長）、丸山宗志（副委員長）、内山博行、倉田美智子、
大門千恵美、臼井和夫、鳥羽弘幸、窪田隆彦、倉澤 聡、久保 愛、
赤羽 勝、相原功子、濱由佳子、小林 修、松山紘子
（欠席 山下京子）

事務局 地域づくり課 課長 高橋伸光、協働推進担当課長 清澤明子、
課長補佐 廣田圭男、協働推進担当主査 柳本真里、
地域づくり担当主査 床尾拓哉

1 開会

（降旗委員長）

2 あいさつ

（降旗委員長）

- ・ コロナ禍で観光客が激減していたが、9月の連休頃から元に戻りつつある。感染は心配だが、経済を止めるわけにもいかない。不安を感じながらも普通の生活に戻ろうとしているのを感じる。本日もマスクをしながらの会議だが、固くならず、ざっくばらんな話し合いをお願いしたい。

3 第1回会議録の修正について

（事務局 床尾）

- ※ 修正箇所について説明

<意見等>

- ・ なし →確定版を市公式ホームページに掲載

4 会議事項

(1) 意見交換（ワールド・カフェ）

（丸山副委員長）

- ・ 第5期委員会の活動方針やテーマを固めていくため、今回はワールド・カフェによる意見出しを行いたい。
- ※ ワールド・カフェの進め方及びテーマ「わたしの〇〇×（カケル）地域」について、別冊資料に基づき説明
- ※ ワールド・カフェ（3ラウンド）を実施

<意見等>

別紙「ワールド・カフェのまとめ」のとおり

(丸山副委員長)

- ・ 各テーブルとも様々なテーマで話し合い、テーブルごとに異なる盛り上がりが見られた。同じ地域を見ているようでも、立場が違えば見えてくるものも違う。今日はそうした違いや共通点を感じとることができたのではないか。

(2) 今後の進め方について

(降旗委員長)

- ・ 今回出された意見を参考にしながら、今期のテーマを絞り込んでいきたい。丸山副委員長、事務局とも相談の上、次回素案を示し、あらためて皆さんの意見を伺いたいと思うがいかがか。

<意見等>

- ・ 異議なし

(3) その他

(小林委員)

- ・ 毎回ワールド・カフェを取り入れてほしい。ワールド・カフェは、参加者の脳を最大限に活性化させる有効なテクニックであると考えている。繰り返し行うことで内容を詰めていくだけでなく、全員がワールド・カフェの手法に習熟することで、別の場所で仕掛け人になることも期待できる。

(降旗委員長)

- ・ さらに活発な意見交換ができるよう考えていきたい。

5 今後のスケジュールについて

(事務局)

- ・ 資料に基づき説明

<質疑等>

- ・ なし

6 その他

(事務局)

- ・ 「未来へつなぐ 私たちのまちづくりの集い」の開催について資料に基づき説明

<質疑等>

- ・ なし

(以上)

第5期地域づくり市民委員会（第2回）ワールド・カフェのまとめ
カケル
 テーマ：「わたしの〇〇×地域」

I 地域のつながり・人間関係

項目	意見等
冷めた人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域のつながりはあった方が良くと思うが、周りはそう思っていない。 ・ ネットで居場所づくりを呼び掛けたが叩かれた。「自分の生活を犠牲にしてまで、人のことを考えたくない」「自分は損をしたくない」という考え方が主流 ・ ヨコのつながりは欲しいが、タテのつながりは不要という考えの人多い。（若いママたちは異世代交流を好まない） ・ お金でサービスを買う時代。お金に困らなければ地域のありがたみは分からない。 ・ ボランティアで何かやってもらうより、有償サービスの方が気が楽という考え方もある。 ・ 人のために動く、思いやる、気遣うが欠落した社会。そうした心は家庭だけでなく、地域ぐるみでないと育めない。 ・ 他人のためには動かないが、我が子のためには動く。自分の子と関わりのあることなら動くのではないか。 ・ 少しずつ分かち合える社会になったらいいと思う。
窮屈な地域、しがらみ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しいことをつぶす風潮 ・ 他人を誹謗中傷する人多い。 ・ しがらみ＝地域の特色、しがらみ⇔無関心。しがらみがいい方向に作用すると、防災などに役立つ。 ・ いい方向に動かすためには、外の人を入れることが重要。視野が広がり、新たな気付きにつながる。
孤立、生きづらさ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民の孤立。地域に出てこられない人もいる。 ・ 行き場のない人は弾かれる社会だと感じる。 ・ 社会全体が「個」になった。どこにも相談できない人多い。 ・ コロナ禍で外に出られない状況を経験。「地域」がないと孤独 ・ 近所の人には家庭内の問題知られたくない。相談しにくい。 ・ 見えない貧困。見かけではわからない生きづらさを抱えている。
顔の見える関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 顔の見える関係づくりが課題 ・ 地区生活支援員が顔の見える関係を作ってくれるのではないか。 ・ 人間関係をつくるには、誰かが動き出さなければいけない。 ・ 知らないと「怖い」というイメージを抱きがち。顔の見える関係ができれば距離も縮まる。 ・ あいさつが大事。あいさつを交わすうちに言葉が増えていく。

項目	意見等
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人のつながりを大切に思える人が増えれば、いい街になる。 ・ まずは「向こう三軒両隣」から ・ 商店や商店街も余力のあるところは地域行事に参加している。「つながりたい」という気持ちはある。
非常時の助け合い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 退職後、いざという時に頼れるのは地域だと感じる。 ・ 与論島で地域がコロナ感染者を気遣うという新聞記事を見た。助け合う「和」があればこそできること。 ・ 災害時要支援者名簿があっても、町会長や民生委員だけでは対応しきれない。隣組レベルでの共有が必要 ・ 仕組みや役割だけではいざという時に助け合えない。日頃からの付き合いや見守りが大切 ・ 隣近所に顔の見える関係があれば、名簿がなくても助け合える。 ・ いざという時のために隣人を知っておくことは大事

II 地域運営・住民自治

項目	意見等
地域運営のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「住みやすいまち」は世代によって異なり、価値観も多様化している。それぞれを認めながらバランスよくやっていく必要がある。 ・ 昔のやり方を踏襲するだけではダメ ・ 地域の宝の見える化、目的の明確化
地域参加、地域への関心	<ul style="list-style-type: none"> ・ いつも同じメンバーしか集まらない。 ・ 住民が地域の団体の活動を知らない。 ・ 定年後、充電期間を置いてしまうと地域に出てこなくなる。 ・ 仕事とのバランスが難しい。若い世代も働きながら関わられるような地域が理想 ・ 行事の後に「楽しかったなあ」と思えることが大事（楽しければ次につながる）
地域の役、役員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢化で役ができず、町会を抜ける事例もある。 ・ 入院中でも、順番だから役員を断れないというケースも聞く。 ・ 高齢で役ができない人は免除する地域もある。 ・ 働いている人は役ができない。結局誰がやるかで揉める。 ・ 町会役員の高齢化 →若い人の負担増→ 若い人が離れる。 ・ 廃止してもよい仕事、市が行う業務など、整理する必要があるのでは？ ・ 役員を引き受けたことで、異なる世代との関わりができた。 ・ 顔を覚えてもらったことで、困りごとを相談してもらえる関係ができた。
地域のリーダー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全てを統括する熱意あるリーダーが求められるが、町会連合会長がそれを担うのは困難

項目	意見等
	<ul style="list-style-type: none"> ・ イメージを強い言葉で説明でき、納得させる力が必要 ・ 役員が1、2年で変わり継続性がない。後継者も出てこない。 ・ 昔の商店街には、敵も味方も多いが強いリーダーがいた。 ・ 地域づくりセンター長の統括権限を強めては？ ・ センター長は、地域を理解している人が長くやるべき ・ 住民主体という趣旨からすると、寿台のようにやる気のある住民を事務局として置く方がよい。 ・ 町会長がすべてやっけてしまっている。周りは何をしたらいいのかわからない。

Ⅲ 子ども・若者・学校

項目	意見等
子どもと地域	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもがいると地域が明るくなる。 ・ 子どもを巻き込むことで、親も地域に出てくるようになる。子どものためと思えば多少嫌なこともやる。 ・ 子どもと地域との関係は親がつくってやる必要がある。 ・ 地域で子どもの姿を見かけなくなった。 ・ 放課後は児童センターに直行する子が多い。児童センターとの連携が必要
学校・家庭・地域	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育が先生任せになっている。家庭や地域で教育について話し合う機会ない。 ・ 「学校－家庭」の関係だけでは、ヨコの関係はできてもタテの関係ができにくい。 ・ 中学校とのつながりが希薄 ・ コミュニティスクールも、教員の要望に地域が応え、お手伝いをするという意識になっている。学校や教員任せではダメ ・ 松原、内田、寿台のコミュニティスクールも以前は学校サポートの傾向が強かった。現在は3地区が協力し、文化祭や防災訓練を通じて子どもの自主性を育もうとしている。 ・ 第三地区では、中学校の求めに応じて地域学習を行った結果、子どもたちが変わっていった。プレゼン力がついただけでなく、松本はいい街だと感じている。 ・ 総合学習の時間は子どもたちの“問い”を紐解く時間。子どもたちが知りたいと思うことに地域が反応してほしい。 ・ 言われた事しかやらない子ではなく、自分たちで考えて行動できる子を育むことが重要
若者の地域参加	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若者をどう地域に巻き込むかが課題 ・ そもそも若い人が出てくるような町会行事がない。 ・ 育成連合会でジュニアリーダー、シニアリーダー育成している。

項目	意見等
	<p>もっと地域で使ってほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 他地域からでも若い人が入ってくれば、地元の若者を呼び込むことにもつながる。
児童館と地域	<ul style="list-style-type: none"> 児童館の人手足りない。若いボランティアとのマッチングが必要 学校にも児童館にも来られない子は引きこもりになるしかない。児童館に来られない子どもを地域で受け入れてほしい 地域の人たちがどれだけ関わってくれるか。地域がバックアップする児童館であれば、災害時等にもその関係性が活かされる。

IV 組織・制度・枠組み

項目	意見等
関係団体・機関等の連携	<ul style="list-style-type: none"> 地域の団体や行政機関等、全てが連携していることが大事 社協は助成金を交付するだけ。地域とのつながりが弱いイメージ 活動の拠点は福祉ひろば。ひろばと公民館は複合化が理想
地域への交付金	<ul style="list-style-type: none"> 地域に配る交付金を一括化してはどうか。
組織のあり方	<ul style="list-style-type: none"> 組織性が強いと仕事は進むが、外から入りづらくなる。学生等が入り込む余地がなくなる。 組織は、弱い人も入り込めるよう緩やかな方がよい

V その他

項目	意見等
理想の地域像	<ul style="list-style-type: none"> 住みよいまち＝居心地のよい人間関係があるまち 住んでいる人が、暮らしやすいと感じられるまち 一人ひとりが生きがいを持って暮らせるまち 一人ひとりの意見が尊重されて、対等に物が言い合える地域（みんなが主役）
高齢者の居場所	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で高齢者の引きこもりが増えている。 高齢者の引きこもりを防止する居場所として、ひろばは大切
地域と農業	<ul style="list-style-type: none"> 農業生産者を増やすには？若い農業者を育てたい。 作物の販売（朝市、夕市）ができないか。

VI 第5期委員会で検討したい課題・テーマ

項目	意見等
(1) 地域のつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 顔の見える関係づくり ・ 人のつながり、顔の見える関係づくり ・ 新たな生活様式における地域づくり、人のつながり ・ 町会行事に参加してもらうには？ ・ 気兼ねなく相談できる地域づくり
(2) 互助のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心つなぐ助け合い ・ 対象者を決めない地域の居場所・食堂 ・ 自分や自分の生活を犠牲にしなくてよい地域活動 ・ 持つ者が持たざる者へという施し型でない活動
(3) 多世代参加	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に関わる子どもの育成 ・ 若者の参画 ・ コミュニティスクールのあり方
(4) 人材・人づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域づくりに関わる人材の育成、継続性 ・ 地域のキーパーソン（後継者）の育成 ・ 人のために動ける人、人を思いやり気遣うことのできる人を育てるには
(5) 地域を知る・学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域学習の方法論 ・ 地域観察 ・ 課題の解決に向けたアイデア出し、連携の模索
(6) 地域の枠組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域づくりセンター、公民館、福祉ひろば、それぞれを活かしながら連携できる形づくり ・ 地区にとらわれない、児童館などを利用しての地域づくり ・ 考えやすい「地域の枠組み」とは？ ・ 町会エリアでは捉えられない大切な地域のつながり